

フ ラ ッ シ ュ

Part 1

6.24 初夏の味覚を召し上げれ 榎引

榎引さくらんぼまつり



フルーツの里・榎引地域の初夏の味覚さくらんぼ。産直あぐりや観光果樹園を会場に「榎引さくらんぼまつり」が開催されました。この日は好天に恵まれ、約四百人が産直あぐりからバスで西片屋地区内八か所の果樹園に向かいました。園内では佐藤錦が色艶よく光沢を放ちます。「高い所の方が甘いらしいよ」。子供たちははしごで上を目指したり、家族にだっこしてもらったり、園内を元気に動き回り、おいしそうなさくらんぼを探します。一方大人たちも高



級な佐藤錦が食べ放題ということ、帰りの時間を気にしながらも存分にその味を堪能していました。続いては産直あぐり特設会場でさくらんぼ種飛ばし大会、さくらんぼを口に含み、ステージ上から種を飛ばします。種を見失うほど遠くに飛ばす人や、気合が入り過ぎて種が口から落ちてしまう人など、歓声や笑い声が会場を包みます。優勝者は一・三・三を記録し、景品の箱詰めの佐藤錦に、観客から羨望のまなざしが注がれていました。

6.23 豊かな山の恵みを生かして 朝日

「大鳥タキタロウ村」山菜祭り



大鳥地区の自然や山の恵みを生かし、山村文化を守りながら地域活性化につなげようとする取り組み「大鳥タキタロウ村」は今年十周年。村づくりに賛同する方が村民として登録し、季節ごとのイベントをとおして、村民と地区住民の交流が図られています。この取り組みは、国の「豊かなむらづくり全国表彰事業」で高く評価され、昨年、東北農政局長賞を受賞しています。「大鳥タキタロウ村」が年間で計画している催しは四回。この日開



催されたのは、ワラビが採れる時期に合わせて行われる恒例の山菜祭りです。市内外から参加した村民約八十人は、開村十周年と東北農政局長賞受賞を祝うとともに、ワラビ採りや山菜料理の昼食、自然散策などに楽しみました。市外から参加した男性は「毎年参加しています。昼食の山菜料理が最高でした」と満足そうに話してくれました。今後、秋のキノコ祭り、新ソバ祭り、冬祭りを開催予定とのこと。村民は随時募集しているそうです。

声 Voice

市役所への意見や質問、広報を読んだ感想などをお寄せください。
送り先 総務課広報広聴係

Q 枝豆の葉や茎の捨て方は？

私の家族は全員、鶴岡の夏の名産である枝豆が大好きで、毎年おいしい枝豆をたくさん食べています。これから旬を迎え、さやをとった後に葉や茎が多く出るのですが、どのように捨てればよいかわかっています。



A 剪定枝等と同様の方法で排出してください

日頃からごみの分別にご協力いただきありがとうございます。お尋ねの「枝豆の葉や茎」について、本市では「庭木の剪定枝等」と同様に、次の手順で処理し、排出することになっています。詳しくは、各家庭にある「生活系ごみの分け方・出し方」に掲載していますので、ご確認ください。
長さを六〇センチ以内、直径を三センチ以内の束にして、ひも等で

ま ち か ど

7.1

風吹き荒れる中での月山山開き 羽黒 月山開山祭



出羽三山の主峰・月山で開山祭が行われました。月山は山岳信仰の山、また祖霊の鎮まる山として知られ、今年も全国各地から白装束を身にまとった参拝者や登山客が集まりました。八合目レストハウスから登る弥陀ヶ原ルートでは、眼下に広がる庄内平野や日本海を一望でき、道中ではキンボウゲやイワカガミといった多種多様な高山植物に出迎えられ、参拝者たちは休憩の合間に花をカメラに収めたり景色を楽しんだりしていました。



今年は何年よりも残雪が多く見られ、参拝者たちは足元に気を付けながら雪道をゆっくりと確実に登っていました。九合目付近からは霧と強風によって辺りが白くかすみ、頂上ではさらに強烈な風が吹き荒れたものの、神社本宮には多くの参拝者が詰め掛け、山開きの神事とともに五穀豊穣・家内安全などを祈願していました。

月山はこれから本格的な登山シーズンを迎え、紅葉が見頃となる九月中旬まで登山を楽しむことができます。

6.30

森の楽しさ伝えます 鶴岡 鶴岡・森の案内人(森のソムリエ)講習会



市域の約七〇割を森林が占める本市では、「森林文化都市」を目指す取り組みの一環として、森の魅力を伝える「森のソムリエ」を育てようと年二回講習会を開催しています。講座と実技体験をセットにした講習会を修了し、森の案内人として登録すると、経験を重ねることにソムリエの証である星が増えていくという仕組みです。

この日は、大学生から年配の方まで約三十人が参加し、大山下池のほとりにある都沢湿地と自然学習交流館「ほとりあ」を会場に、



今年度一回目の講習会が行われました。「身近な自然のこともっと知っておきたいという気持ちもありましたし、森の案内人などで誰かの役に立てるならと思いい、初めて参加しました」と参加者。講師の大農学部教授林田光祐氏は「湿地の保全は自然任せではなく人の手がある程度加える必要がある」と説明し、参加者は湿地保全活動の重要性を学びました。

称号を得たソムリエは、今後、森の案内人として森林散策イベントなどでの活躍が期待されます。

縛る

「もやすみ」の収集日に、収集袋に入れないでそのままごみステーションに出す

夏季は、年間で最もごみの量が多くなる時期です。ごみ全体の収集に支障が出ることもあるので、「枝豆の葉や茎」の量が特に多い場合は、数回に分けて排出するなど各家庭で配慮くださるようお願いいたします。

ただし、販売を目的とする農家等の事業系に該当する廃棄物はごみステーションには出せません。ごみステーションは生活系ごみの排出場所であり、事業系である農家や商店、企業等のごみは排出できないことになっているため、枝豆に限らず、農産物や生産資材等のごみ全般についても同様ですので、ご注意ください。

最後に、各収集袋には持ち手部の他に「結びひも」が付いています。収集の際にごみが散らばらないように、しっかりと結びひもを縛って(できれば持ち手部分も縛って)排出してください。スムーズかつ迅速な収集作業のためにも、ご協力をお願いします。

ご不明な点がありましたら、廃棄物対策課 ☎25 2111 内線 677へお問い合わせください。

廃棄物対策課

6.24

緑豊かで美しい
すみよいまちを

鶴岡

鶴岡市市民の森の会四十周年記念式典

市民有志で構成する「鶴岡市市民の森の会」は現在会員数三百七人。公共施設等への植樹や、市内の名木を指定する「緑の賞」などの活動とあわせて緑化に取り組み、今年設立四十周年を迎えました。第三学区コミュニティセンターを会場に開かれた記念式典と記念講演会には会員約六十人が出席。今後も緑化推進に努めていくことを確認し合いました。



6.24

福光への勇気の響き！

朝日

いのちのコンサート



南庄内の水源地でもある月山ダムを会場に、太鼓や演奏など、多彩なステージが繰り広げられました。宮城県気仙沼市の小・中学生二十三人で構成する「気仙沼八幡太鼓」の他、市内の太鼓や合唱団、スクールバンドの四団体が出演。来場者は大自然の中で、子供たちの太鼓の力強い演打や美しい歌声に聴き入っていました。

6.28

優しい心を持って
大きくなって

櫛引

くしびき南部保育園読み聞かせ



くしびき南部保育園の毎月のお楽しみ行事、お誕生会。今回は読み聞かせボランティア「武久塾」の武久明雄さんが駆けつけてくれました。武久さんはお祝いに自作の紙芝居を披露。病気になるた熊を森の仲間が協力して支え合う物語で、職員が朗読に合わせて武久さんが身振り手振りで演出します。園児たちは真剣な表情で紙芝居に見入っていました。

6.30

秋篠宮さま、眞子さま出席
アマゾンへの理解深める

鶴岡

生き物文化誌学会鶴岡例会

生き物と人間文化との関わりなどを考える「生き物文化誌学会」の例会が出羽庄内国際村で開催され、秋篠宮さまと長女の眞子さまをはじめ、全国から約百三十人が参加しました。例会では「アマゾンの生き物文化と現代社会」をテーマとして、アマゾン民族館の山口吉彦館長ら四人が講演を行い、参加者は、貴重な講話に聞き入っていました。

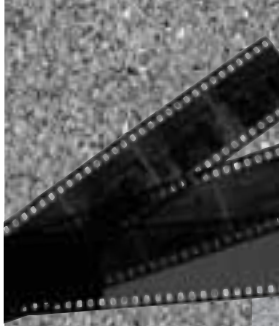


ま

ち

か

ど



フ

ラ

ッ

シ

ユ

7.5

うまくさばけるかな

温海

学校地域連携事業 漁業体験



鼠ヶ関小学校の五年生二十五人が漁業体験を行いました。

漁船に乗り込んでの漁の見学では、荒波にもまれ船酔いする児童も多く、漁の厳しさを体感していました。

港に戻ると、漁業者から魚さばぎの手ほどきを受けた児童たち。始めは苦戦していましたが、「コッ」をつかむのも早く、上手におろした魚を自慢げに先生に見せていました。

7.7

恐竜に決めた!

藤島

八栄島公民館 親子陶芸教室



にぎやかな会場内。色ガラスなどを使ってきれいな彩りに仕上げられた見本の作品を参考にして、何をやるか相談して決めていきます。「家で絵を描いてきた!」「何色がいいかな」と会話も楽しそうです。

恐竜の置物を作りたいと奮闘する親子は、だんだん形作られていくその姿に目を輝かせながら、楽しそうに作品を仕上げていました。

7.12

ベリーダンスで異文化体験

温海

温海公民館 異文化体験 ベリーダンスに挑戦編



腰をくねらせる優雅で独特な動きが魅力のベリーダンス。その基本を楽しく学ぶ講座が温海ふれあいセンターで行われました。三十人の参加者はストレッチで体をほぐし、基本的な動きを教わった後、いよいよ講師の動きをまねながら踊ることに。エキゾチックな音楽が流れる会場に爽快な汗を流す参加者の楽しそうな笑顔が広がっていました。

7.13

自分にあった健康法を見つけよう

藤島

私らしい健康発見セミナー



今年新たに企画されたこのセミナーは全三回の講座。初回のこの日は家から持ってきたみそ汁の塩分濃度を測ってみます。「日頃から薄味を心掛けています」という参加者は、塩分濃度が標準を下回っていました。「薄味にしてもたくさん飲んだらだめだの」と話すと会場には笑いが起こりました。次回は体力測定と軽い運動をする予定です。